

[ミステリアスな弦楽器の演奏]

タイトル: フェアビュー学区、米国、ペンシルベニア州

フェアビュー学区の教育長補佐であるJustin Zona博士の写真入りIDバッジが表示される。

Justin Zona博士: 私はJustin Zonaです。

その横に、フェアビュー高等学校の校長であるLuke Beall博士のバッジが表示される。

Luke Beall博士: Luke Beallです。評価において重要なのはフィードバックです。生徒にも教師にも欠かせません。

木製の机の上に、数学の小テスト、鉛筆、消しゴムが置かれている。小テストに、紫色のマーカーで採点マークとフィードバックが書き込まれる。

[学校のベルの音]

Beall博士: 自宅の庭で、子どもにキャッチボールを教えるとしましょう。最終的な目標は、子どもがボールを捕り、自分に投げ返せるようになることです。そのプロセスにおいて、あなたは常に評価を行い、その評価にもとづいて教え方を変えているはずで、これこそが理想的な教育の姿であり、教師のみなさんに求められているのは、それをもっと多くの子どもに行うことです。

無彩色の背景に、革の野球グローブが現れ、その中にはボールが入っている。その横に、小さめのカラフルな野球グローブが現れる。ボールは、大きなグローブと小さなグローブの間を何度も行き来する。次に、野球のトロフィーが映し出され、ゆっくりと回転している。再びグローブが現れ、小さなグローブが9つに増える。

Zona博士: この学区では幼稚園から高校3年生まで、すべての生徒がiPadを持っており、小学校3年生以上はiPadでテストを受けます。

今度は、6つのリュックサックが左から小さい順に並んで現れる。それぞれのリュックサックから、iPadが顔をのぞかせる。iPadがリュックサックの中にサッと戻る。

[紙をめくる音]

Beall博士: デジタルの世界を知ってしまうと、もう元には戻れません。

様々なマークシート用紙が次々に現れ、マークがいくつか塗りつぶされている。模擬試験の問題用紙と解答用紙、鉛筆、消しゴム、分度器が登場する。鉛筆の跡で解答用紙が汚れ、解答用紙の一部が破り取られる。そばにある電卓に「エラー」と表示される。

Zona博士: 問題冊子を数えたり配ったり、教室へ運んだりするのも、公式をまとめたプリントや電卓を配るのも、

iPadのBluebookアプリに数学の模擬試験の問題が表示され、その背後では、紙の模擬試験に必要なものが消えていく。

Beall博士：デジタルなら不要です。

[軽やかなクラシック音楽]

iPadは、セキュリティ対策も万全なので、生徒の進捗状況をリアルタイムで確認したり、特定のアプリケーション以外は使えないようにロックすることもできます。

iPadに、時間制限のある読み書きのテストが表示されている。「Bluebook Examsは試験モードを開始します」というメッセージが表示される。Macに「あなたのデバイスをロックします。試験中にほかのプログラムやアプリを使用しようとした場合、あなたのスコアは取り消されます」というメッセージが表示される。

Zona博士：iPadなら人為的なミスを大幅に減らせます。

模擬試験の問題冊子と解答用紙の上にコーヒーがこぼれる。次に、iPadにBluebookアプリのホーム画面が表示されている。ポップアップメッセージには「アプリのセルフロックを承認してください」と表示されている。

Beall博士：iPadとMacの試験モードなら、SAT（米国の標準学力テスト）にも対応しています。

Zona博士：そうですね。

[学校のベルの音]

iPadに「お疲れさまでした！テストは終了です。あなたの答えは提出されました」と表示され、紙吹雪が降り注ぐアニメーションが表示される。次に「受験生はこちらへ」と書かれた看板が登場する。看板の文字が「受験生は全員こちらへ」に変わり、看板の下にAppleのアクセシビリティ機能のロゴが現れる。

タイトル：アクセシビリティ機能。VoiceOver、音声コントロール、スイッチコントロール、さらに大きな文字、ダークモード、カラー以外で区別、コントラストを上げる、視差効果を減らす、クローズドキャプション、バリアフリー音声ガイド。

Zona博士：Apple製デバイスの画期的な点は、内蔵のアクセシビリティ機能です。個別の配慮が必要な生徒にも、公平な学習機会を提供できるよう、キーボード入力や音声入力も使えます。

Keynoteのテキストボックス内に「テキストを音声入力」のアイコンが表示される。画面に「Speak to text」（音声入力）と入力される。教室の机の上にiPadが置かれており、デバイスごとに異なるアクセシビリティ機能のアイコンを表示している。

Beall博士：生徒がテストを受ける際の障壁を取り除いて、テストに集中できる環境を作り出せるのです。

iPadに、利用状況を分析したグラフがスクロール表示される。

形成的評価にも有効です。教師はリアルタイムでデータを取得し、それを活用しながら授業を進められます。これもiPadだから実現できたことです。教師は即座に状況に対応できます。

壁掛け時計の秒針が12の位置に向かって動いている。次に「すべての生徒」というタイトルの画面が現れ、フリーボードの数学のワークシートがグリッド状に表示される。各ワークシートのアイコンには、それぞれ別の生徒の名前が表示されている。

Beall博士：「分数の通分に苦労していますね。少し手を止めて、一緒に例題を解いてみよう」と言えます。

壁掛けモニタに「分母の最小公倍数を見つける練習」というタイトルのフリーボードが表示され、手書きの数字が並び、その横には分数が表示されている。iPadに、算数の練習問題と、歴史のテストが表示される。iPadのクラスルームアプリで、表示されているアイコンが生徒たちの顔写真から書類に切り替わる。

Zona博士：モジュール学習や振り返り、観察記録でも、すばやいフィードバックがあれば、効果はさらに高まります。

Beall博士：その通りです。Apple製品を使い始めてから、生徒の学習意欲は確実に向上しました。

Macに、生徒の分析画面がスクロール表示される。様々な教科の教材を表示している複数台のiPadが、グリッド状に並べられている。

Zona博士：授業スタイルも、練習問題を解くだけでなく、グループに分かれて問題の解き方を解説するビデオを作成し、そのすべてのビデオを試験対策に活用するようなスタイルへと変わりました。

紙の問題用紙がクシャクシャに丸められる。机の配置が、グリッド状から3つの円形に変わる。録画ボタンが選択される。iPadのiMovieで、図形の問題に関するプレゼンテーションのビデオの下に、オーディオトラックが表示されている。

Beall博士：そうですね。

Zona博士とBeall博士のIDバッジの写真が、お互いの方を向く。

Zona博士とBeall博士：[声を合わせて]ずっと魅力的な授業になりました。

Beall博士：大切なのは、生徒にとってベストかどうかです。評価において何が最善かを真摯に考えれば、デジタルツールが必要だという答えにたどり着くはずです。iPadは、それを実現するための最高のパートナーです。

円形に並べられた机の上にiPadが置かれている。机の上に教科書や試験の答案用紙が次々に積み重ねられ、一番上にiPadが載せられる。iPadの画面に足し算のワークシートが表示され、そこに手書きの文字で「大変よくがんばりました！」と書き込まれる。Appleのロゴが鉛筆で塗りつぶされる。